

令和6年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第2回)			
日 時	令和6年7月30日 (火) 17時30分～19時30分		
場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0人
出席者	委員 (14人)	<b>【会場出席 (9人)】</b> 森会長、鴻野委員、藤田委員、大西委員、田澤委員、鈴木委員、小山(三)委員、斎藤委員、外崎委員 <b>【オンライン出席 (5人)】</b> 今村委員、高島委員、棟方委員、崎野委員、清藤委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課参事兼課長補佐、企画課総括主査、企画課主査(2人)	
	その他		
<b>会 議 概 要</b>			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 第1回審議会の質疑や意見に対する回答について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。(「・」委員意見、「⇒」事務局回答)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「信号機のない横断歩道歩行者優先啓発事業」について、実際に見通しが悪くなっている事例を認識している。また、破れているのぼり旗もあるが、市が町会等に管理を任せていることが要因の一つではないか。先日、テレビを見ていたら、市道に設置されているカーブミラーの支柱の根元が腐食していたため強風で倒れ、通行中の小学生にあたってケガをさせたという報道を見た。のぼり旗についても、設置した後の管理が大切であることを、しっかり認識していただきたい。</li> </ul>			
⇒担当課に聞き取りした範囲では、破れているのぼり旗に関しては、町会から更新したいという要望があれば新しいものを配布しているとのことであった。			
設置後の管理については聞き取りしなかったが、今のお話を聞く限りでは町会に一任しているのが実情かなと思うので、市がもっと関わるべきであるという意見をいただいた旨、担当課に伝える。			

(2) 弘前市総合計画 施策の一次評価について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。(「・」委員意見、「⇒」事務局回答)

【①望ましい生活習慣の定着】

- ・小・中学校へのベジチェック貸出に関連して、学校への貸与以外にもスーパーやデパート、イベント等で積極的に活用し、市民に野菜摂取の大切さを啓発してほしい。

⇒ベジチェックは現在 10 台保有しており、中心市街地の店舗等に 4 か所常設しているほか、イベント出展でも活用しており、今後もイベントをはじめ市民が足を運ぶ機会をとらえて設置し、野菜摂取の意識づけにつなげていく。参考までに、昨年度から町会連合会主催の市政懇談会にも設置し、参加した地域住民への啓発を行っており、今年度も引き続き実施する予定である。

- ・ベジチェックについて、「保護者への波及効果による親子での意識づけを目指します」とあるが、小中学校で子どもたちがベジチェックを体験するだけでは、保護者への波及効果は生まれないと思う。

- ・ベジチェックについては、子どもよりもまずは大人から意識を変えていかないと、子どもへの波及も期待できないと思うので、あと 70 グラム野菜摂取を増やすために、大人がどんどん体験する機会を設けてほしい。

⇒健康意識が低いとされている働き盛り世代に向けた対策として、子どもたちが楽しめるイベントにベジチェックを設置し、そこに来る保護者が体験することで野菜摂取の意識付けにつなげる取組を行っている。それらも含め、引き続き保護者世代への波及効果を目指して取り組んでいく。

- ・食育や肥満に関連して、実際に肥満の子を持つ親はどんな食生活で、どんなことに困っているのかなどを学校を通じて調査し、その結果をふまえて対策を講じる必要があると思う。肥満傾向は長年の課題なので、調査や学校側をふまえて対応策を検討していかなければならない。

- ・子どもの肥満について、各家庭での食生活や保護者自身も肥満傾向にないかなども重要であり、子どもだけにベジチェックなどの対策を打っても効果が出るのか疑問があるので、肥満に関するデータなど、具体的な根拠に基づく対応が求められると思う。

⇒学校を通じた食生活の調査等については、2024 年度に重点的に取り組む内容として、教育委員会や学校現場の養護教諭の先生方に学校現場の実情を聞く予定としているため、今後はその結果をふまえた取組を検討したい。

・喫煙対策について、そもそもしっかりと課題分析がなされているか疑問がある。例えば、女性の喫煙が増えているという指標の実績について、それはなぜかといった聞き取りや分析は行ったうえでないと、効果的な対策は打ち出せないと思うので、もう少し調査や課題分析に力を入れてほしい。

⇒市民意識アンケートの結果、市民の中でも女性の喫煙率が増えている状況だが、結果を詳細に見てみると、女性特有の傾向として加熱式たばこの割合が増えている。また、市民に限らず全国的な傾向として、女性の方が少ない本数でも依存度が高い傾向があることも分かっており、これらを踏まえたうえで、2025年度には、妊産婦の再喫煙者の増加抑制を目指していく方向性とした。

### 【②多様な担い手の雇用の推進】

・「多様な担い手」として、女性や障がい者、高齢者を支援対象としているが、ここでいう「多様な担い手」には外国人は含まれない、という認識でよいか。

今後は、技能実習生や外国人労働者の実態もきちんと把握・確認しながら、外国人を共に地域を盛り上げていく仲間であると捉えることが必要ではないか。

⇒技能実習生について、現状では市に情報が入ってこないため実態は把握できておらず、外国人労働者に対する具体的な支援は実施していない。

今後、人口減少が進行していけば、担い手として外国人を活用することも考えなければならぬ時期が来ると思うので、まずは情報収集などできるところから取り組んでいきたい。

・例えば高校生に、弘前ならではの嶽きみ収穫のアルバイトを経験してもらうなど、様々な職種・業種のアルバイトをしてもらうよう取り組むことが、多様な担い手の確保に向けて重要だと思うので、そういった取り組みも実施していただきたい。

### 【③日本一の高品質りんごの生産性向上とりんご産業イノベーションの推進】

・りんご産業イノベーションについて、もう何年も取り組んでいるが、実用化されたものはあるのか、確認したい。また、期待している農家もいると思うので、まだ実用化されていないのであれば、いつごろの予定なのかも併せて確認したい。

一般の農家の方に、事業の成果が届いているのだろうか、と思うところがあり、届いているのであればそれを成果の欄に記載すべきである。

⇒AIの摘果判断システムは、令和4年度に試作版が完成しており、令和8年度からJAを中心に本格的に普及させていく。

VR剪定学習支援システムは、令和4年度で完成しており、6人程度の小グループによる研修を年度で3回程度、実施している。

**【④観光客受入環境の整備促進】**

質疑なし。

**【⑤省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入拡大】**

- ・ゼロカーボンシティひろさきを宣言したことで、市民にも何かメリットがあるのか。これまでも市民は、食品ロスやごみの減量化など協力してきたので、このゼロカーボンシティ宣言をきっかけに、例えば自宅への太陽光発電設置への補助を受けられるなど、なにか市民にもメリットがあると良いと思う。

⇒市では、環境省職員を「脱炭素推進アドバイザー」に任命し、市としてどういう取組実施すべきか等を助言いただいている。ご意見をいただいた太陽光発電への補助も含め、国や県との役割分担にも意識しながら必要な対策を検討していく。

**【⑥市内の公共交通ネットワークの構築】**

質疑なし。

**【⑦企業等とのまちづくりの推進】**

質疑なし。

**【⑧広報の充実】**

- ・広報ひろさきの15日号が廃止されるとのことだが、インスタやX、LINEは自主的に見ようと思わなければ情報が入ってこない媒体なので、毎戸配布で自然に読まれる広報とは性質が異なると思う。広報配布の負担軽減も大切だが、手軽に情報入手できることも今後必要だと思う。

⇒広報ひろさきはこれまで月2回配布してきたが、分野や内容によってはあまり読まれていない部分もあるのが実情であるため、情報伝達の手法を再検討すべく、今回新たな取組としてLINEを活用することにしたものである。また、現行の広報ひろさきは、後半部分に行事のお知らせが多数掲載され見づらいつらといったご意見もあったため、今後は別の冊子を作成し、引き続き公共施設やスーパーなどに配置して情報発信していく。

- ・インターネットをよく使う若い世代には、広報内にQRコードを入れて内容の詳細や参加登録ページへ誘導する方が効果的であり、結果的に情報へのアクセスも増えると思う。

⇒年代別に情報の伝え方や使い方が異なることから、10月から広報の内容を見直し、高齢者向けの内容は内容をしっかり掲載するとともに、若者向けの情報にはQRコードを引き続き使用することで、紙面のスペース確保にもつなげたいと考えてい

る。

3 閉 会